

平成27年度学校評価実施計画

学校名	大分県立日田支援学校
-----	------------

前年度評価結果の概要	<p>○重点目標1 ・個別の指導計画の1学期の評価を、◎○△で視覚的に表し、保護者にわかりやすく提示できた。 ・各学期に授業参観Weekを設け、個別の指導計画の授業への反映状況を保護者に見てもらった。</p> <p>○重点目標2 ・PATH研修会を年3回実施。夏季休業中にPATHの技法を取り入れた面談を実施。 ・夏季休業中に全職員による職場開拓を実施し、新規雇用を実現できた。</p> <p>○重点目標3 ・センター的機能の充実として2名体制での各地域への巡回相談を実施した。 ・小学部・中学部・高等部ともに予定通り学校間交流を実施した。 ・評議員会において西有田まつり、挨拶運動等地域からの高評価を得た。</p>	<p>●ニーズを基にした個に応じた学習活動に対する取り組みはアンケート評価3.5であり当初の目標は達成できなかった。</p> <p>●PATHの技法を用いての取り組みを担任だけでなく学年部、学部体制で保護者全体に浸透するような説明の工夫を行う必要がある。</p> <p>●学習発表会をはじめ各種行事への地域・関係機関の参加を増やすための様々な方策を検討していく必要がある。</p>
------------	--	--

学校教育目標	中期目標	重点目標
児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導や支援を行い、その可能性を最大限に高め、心豊かでたくましく、みんなとともに自分らしく生きる力を養い、自立と社会参加を目指す人間を育成する。	<p>①卒業後の姿を見据えた、小学部・中学部・高等部での一貫教育の徹底・推進</p> <p>②障がいの重複化・多様化に的確に対応するため、個々の専門性の向上と組織力の強化</p> <p>③県西部地域におけるセンター的機能の強化と、家庭・地域との協育・協働の推進及び安心・安全な学校作り</p>	<p>(1)キャリア発達を踏まえた一貫教育の徹底</p> <p>(2)OJTによる授業改善と組織力の強化</p> <p>(3)保護者・地域・関連機関との協育・協働</p>

PL:プロジェクトリーダー、SL:サブリーダー

重点目標	達成(成果)指標	重点的取組 達成指標実現のための取組	取組指標 取り組んだことが検証できること(具体的数値等)を掲げること	PL SL
(1)キャリア発達を踏まえた一貫教育の徹底 ○児童生徒一人一人の取り組むべき課題解決に向け、キャリア発達に応じた指導内容を準備することにより、卒業後を見据えた一貫教育を徹底する	<p>①小学部1年生と4年生、中学部1年生、高等部1年生について、PATHの技法を用いた面談を実施し、キャリア発達を踏まえた目標設定(目標の修正・変更)による教育を推進 ※対象児童生徒への実施率100%</p> <p>②将来を見据えて設定した目標を達成するための個々の課題を、保護者との合意形成の下、個別の指導計画に位置付けて実践</p>	<p>・PATHの技法を用いた面談で明らかになった目標を個別の指導計画の中に位置付ける。 ・PATH技法の取得及び向上ため、教職員を対象した研修会を実施。</p>	<p>・面談を実施した児童生徒全員の個別の指導計画の該当部分を太字にすることで、PATHの技法を用いた面談を通して保護者と共通理解できた内容を共有する。 ・年度当初と夏季休業中にPATHについての研修会を行う。</p>	<p>PL:教務</p> <p>SL:研究・進路</p>
		<p>・キャリア発達の視点を取り入れた内容を個別の指導計画に位置付けるとともに各学期末のPTA等で保護者に説明する。 ・指導計画に位置付けられた内容を基に、具体的な目標、支援、評価を明確にした授業の実施。</p>	<p>・個別の指導計画に取り入れたキャリア発達の視点を中心とした授業研究会を各学部でおこない、個別の指導計画を充実させる。 ・児童生徒の発達段階を把握するためのキャリア発達段階表を作成する。</p>	<p>PL:研究・進路</p> <p>SL:小中高</p>
(2)OJTによる授業改善と組織力の強化 ○各学部で授業改善に取り組む授業者を決定し、OJTによる授業改善を行い組織的な授業力の向上を目指す	<p>①授業自己診断シートにより自己の課題を明らかにし、取り組むべき課題についてグループでのOJTを実施し、8割以上の改善を実現</p> <p>②各学期に授業参観週間を設け、改善された授業を公開する</p> <p>③一人一教材・教具の工夫改善の取組による授業改善</p>	<p>・授業改善のための研究組織を構築するため、各学部ごとにOJTによる課題解決に向けての研究を進める。</p>	<p>・授業自己診断シートを活用し1年間の変化を数値化する。(4月、10月、3月実施) ・年度当初に、各学部の授業者(フォローアップ研修対象者)を決め児童生徒の実態把握(検査等実施)→保護者面談→課題の設定→授業内容協議→授業実施→研究協議を行う(各学期1回)。 ・特別支援学校教員指導力向上事業を活用して、授業改善に資する講師を招聘しての研修会の実施(2回)</p>	<p>PL:研究</p> <p>SL:教務・小中高</p>
		<p>・各学期に授業参観週間を設定し、参観していただいた保護者等にアンケートを記入してもらい、結果を職員に還元し、授業改善を行う。</p>	<p>・数値化できるような内容のアンケートを作成する。「満足」の数値を90%以上にする。 ・アンケート結果を保護者にも還元することで、アンケートの回収率を上げる。 ・授業参観週間の案内を6週間前に配布し、当日の授業予定を1週間前に配布する。</p>	<p>PL:教務</p> <p>SL:研究・進路</p>
		<p>・授業方向上のため、特別支援学校教員としての専門性の向上を図るとともに教材・教具の工夫改善を行う。</p>	<p>・年2回(夏、冬)、「日田支援学校教材・教具展」を開催し、他の教職員の教材・教具を参考とする機会を作る。 ・県内、県外の学校や研究団体等の研修会への参加を呼びかけ、長期の休業中に環流報告会を実施する。</p>	<p>PL:研究</p> <p>SL:小中高</p>
(3)保護者・地域・関連機関との協育・協働 ○関連機関と連携しながら、保護者・地域・交流先に向け情報を発信する。また、地域交流を活用した教育実践を展開し、地域に根ざした学校作りを推進する ○児童生徒が安心して学べる、環境等の整備	<p>①月1回以上の情報発信及び共有と学期1回の研修会の実施</p> <p>②県西部(日田・玖珠・九重)地区の特別支援教育センター的役割を担う人材の育成</p> <p>③災害等における児童生徒の避難態勢及び家庭への連絡・引渡方法の確立</p>	<p>・「進路だより」の発行や授業参観週間、PTA、保護者のための進路学習会など毎月何らかの情報提供を行う。</p>	<p>・「進路だより」4回、授業参観週間3回、保護者のための進路学習会3回、PTA5回行い、情報提供に努める。</p>	<p>PL:進路</p> <p>SL:教務</p>
		<p>・校内の教員の心理アセスメントの技量を高める。</p>	<p>・研究部と協力し、年度当初にアセスメント全般に関する研修を行い、その後、WISC-Ⅲ、WISC-Ⅳの検査結果の解釈についての研修を行う。各人最低2回のアセスメント研修をすることで、より多くの教員の心理アセスメントの技量を高める ・年度当初から、可能な限り、2名体制での巡回相談を実施し(依頼の半数)、実際場面における巡回相談員としての技量を高める</p>	<p>PL:ラポール</p> <p>SL:研究</p>
		<p>・異なる複数のパターンを想定した災害時避難訓練を行う。</p>	<p>・複数のパターンの訓練を年度内に実施する。 ・保護者を含めた緊急避難訓練を行い、実際に緊急の迎えが可能かどうか確認する。 1. 災害後、保護者に引き渡す 2. 災害時、学校で待機する ・待機する時間が長い場合を想定して、非常食の備蓄についての検討と試食を行う。</p>	<p>PL:生徒指導・保健</p> <p>SL:小中高</p>